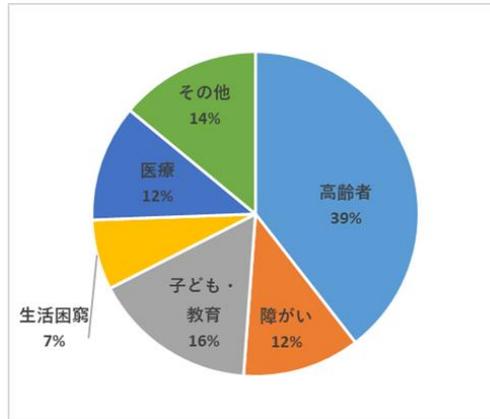


## 令和5年度多分野専門職合同アンケート評価

2 所属する分野を1つだけ○をつけてください。

項目	人数
高齢者	17
障がい	5
子ども・教育	7
生活困窮	3
医療	5
その他	6

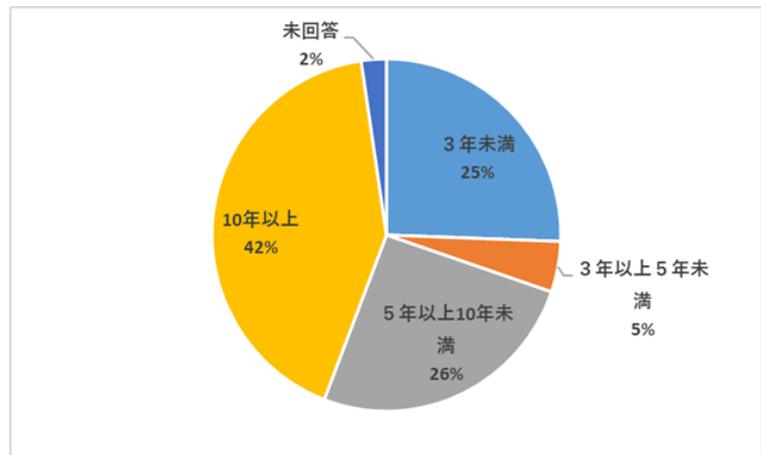


(その他内容)

- ・精神保健福祉
- ・就労
- ・大学研究
- ・地域福祉課

3 支援の経験年数について。当てはまる番号に○をつけてください

項目	人数
3年未満	11
3年以上5年未満	2
5年以上10年未満	11
10年以上	18
未回答	1



4 この研修を受講した動機は何ですか。記入してください。

### 【多分野多職種との協働や関係づくり、役割を学ぶ】

- ・多機関協働、地域づくりについて学びたかった
- ・各機関の役割や業務を理解できておらず、連携、繋がり方を今後の業務に活かせるようにするため。
- ・多機関との連携について学ぶため
- ・多機関の交流を通じて、スキルアップすることと今の業務に活用するため
- ・他機関の方と交流し視野を広げたかった
- ・多機関連携、地域福祉の推進について学びたかったため
- ・人とのつながりをひろげて関わり方を増やすため
- ・高齢者分野以外の機関の事や機能等を知りたかった
- ・他機関との連携が仕事上多いため
- ・関係機関の方とつながりをもちたいから

・それぞれの専門職の方々との交流、他機関の専門職の方々の活動内容、対応内容の理解

- ・多分野での専門職が集まる研修であったため
- ・多分野の専門職の方々と会える。多分野を学ぶため
- ・高齢者支援をしていく上で、支援者とのつながり、つながり方を、学びたかったから
- ・高齢者だけでなく支援が必要な人をどう繋げていくか理解したいと思ったため

#### 【地域支援研究会の定着化・知名度アップ】

- ・前年度、受講した人から内容を聞き、興味をもった
- ・周りから勧められたのと自分が今後相談支援をしていく上で必要と感じたから。
- ・前回研修に参加した職員から話を聞き、他分野の方と話すことができると聞いたため
- ・同じ課の職員に誘われ、興味があったため
- ・課への案内が届き、前年参加された先生に勧められた
- ・上司の勧めにより参加した
- ・基幹包括からの案内、課長からも少し聴いていたので参加したかった
- ・市からの紹介
- ・以前から声掛けをしていただいております業務が落ち着いたため
- ・受講者からの声掛けです
- ・職務の方針
- ・市からの情報提供
- ・受講者からお誘いを受けた

#### 【重層的支援体制整備事業への期待や必要性】

- ・重層的支援を意識した関わりが出来るよう知識を養うため
- ・重層支援が今後もっと重要になってくると思ったから
- ・重層事業を学びたかったの
- ・重層事業の実施に向けて他自治体の取組みを学ぶため
- ・重層的支援体制整備事業について知りたかったため
- ・重層について知りたかったから

#### 【個々の学び】

- ・個々に応じたケースワークを学びたいから
- ・春日井市の中でコミュニティをどう活かせるか学びたかったから。
- ・研修の内容に興味があったため
- ・テーマの関心

### 5 相談支援を実施する際に、葛藤（ジレンマ）や困難さを感じますか。

#### 【SOSを出さない、出せない対象者に支援をする難しさ】

- ・自立に向けて声掛けをしても、社会的なつながりがなく、他の支援員の関わりを拒否している世帯に対する支援
- ・困っていない本人と困っている周りのようなケース
- ・対話を拒否、拒否がある方への関わり対応
- ・自己決定と必要な支援にずれがある時に困難さを感じる
- ・相手との距離感や全く相手にされない子に対して困難さを感じる・対人援助がスムーズに受け入れられない場面に対して困難さを感じる
- ・その人の行動変容について困難さを感じる
- ・本人の想いを大切に思っているが、実現が難しいことが多い
- ・困難ケースだと多分野がからんでおり複雑。

### 【多分野の理解や相談支援技術の不足】

- ・相談者、個の悩み、ADL低下の裏に家族それぞれ問題を抱えており、知識不足から話を聞くことができなかった。
- ・利用者の方一人一人にもっと時間をかけて対応したいがなかなかできない・自分のスキルがなく支援の方法がこれで良いのか常に心配になる
- ・多様な価値観の方の意図をくみ取ることやそれに対する自分自身の相談が合っているのか不安。
- ・他に提案できることはないか私が知っていたらもっとスムーズに解決できるのではと思うことがある。
- ・他機関の情報が知識不足のため、依頼しても断られることもしばしばあり。例えば本人の賃貸の住まいが、段差が多く引っ越ししてほしいが、(本人ADL低下)生保の制度上引っ越しできない
- ・普段、相談支援業務をおこなう経験がないため、個別支援との連携自体に難しさを感じていた。
- ・自分の中では、やれるだけのことを伝えその上で本人の意向を尊重したつもりでもその結果緊急搬送になった時など他に関われる方法はできなかったのかと感じる
- ・複合的な課題があるときなどの無力感を感じる

### 【所属機関での限界】

- ・相談者や関係機関からの役割期待に十分に応じられない
- ・相手が求めている(困っている)ことと自分が支援できる範囲があること
- ・所属(立場)の限界、専門職(個人)としての価値(感情)※関わりが必要だと思っても手が伸ばせない
- ・仕事量がとにかく多すぎて、すべての職員がフル活動で職員の疲弊が心配
- ・支援対象が明確に年齢で限られていること
- ・相談業務専任ではなく、担任や授業をやっているので、動きたいときに動けない。

### 【関係機関の役割分担の曖昧さやすれ違い】

- ・同じケースを多くの人と関わりながら支援する時に、お互いのできる事、役割をうまく活かしきれず、互いに不満を感じていることがある。
- ・各支援機関により、考え方や支援の進め方について意向が異なることがある。
- ・関係機関と連携する際にそれぞれの専門性や価値観、立場があり、すり合わせが難しい。
- ・ケースの視点、考え方の違い
- ・介護保険分野での対応を検討することが多くそれだけでカバーできない部分に困ることが多い。相談すべき場所が分からないこともある。

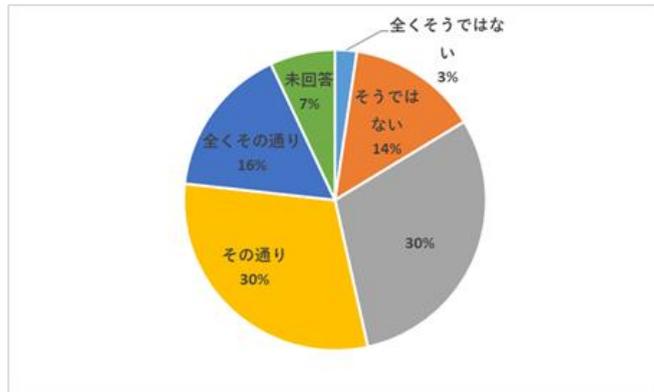
### 【様々な葛藤】

- ・本来の役割、機能でより良い支援ができるのになあと思うことがある。
- ・本人の意思、権利、保護のバランス
- ・今回の研修で福祉/保険支援のちがいを感じ、自分達のあり方を考えた
- ・相談者自身に主体性がない
- ・大変感じている

## 6 個別支援

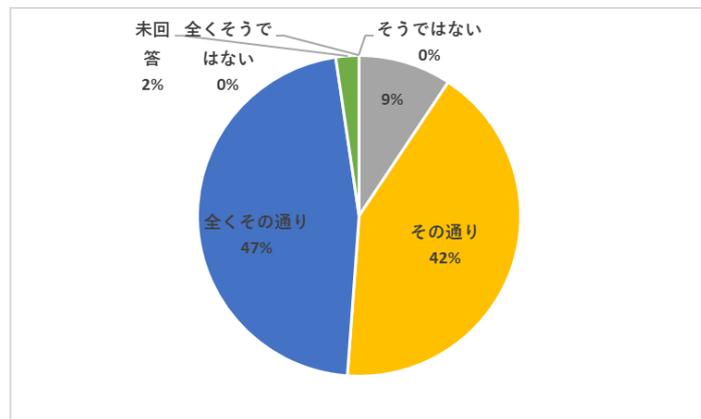
(1) これまで所属する機関で「属性を問わない相談支援」を実施してきた。

項目	人数
全くそうではない	1
そうではない	6
(中間)	13
その通り	13
全くその通り	7
未回答	3



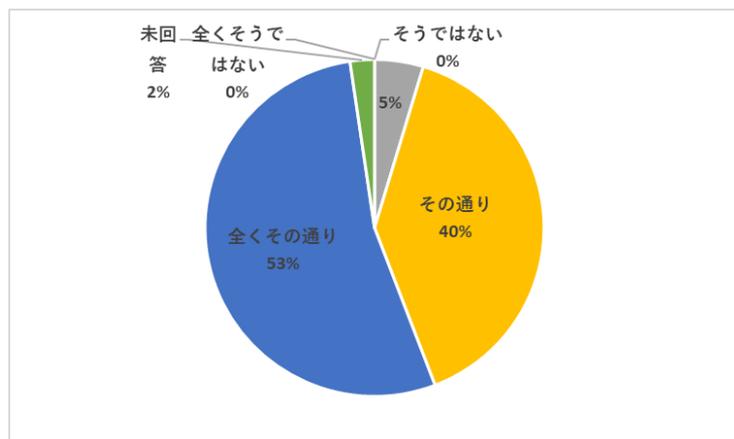
(2) 研修内容は、期待どおりであった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	4
その通り	18
全くその通り	20
未回答	1



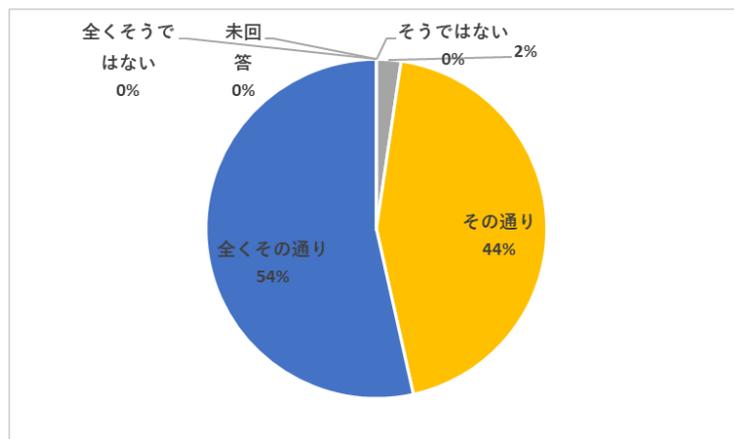
(3) 講師の説明は、分かりやすかった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	2
その通り	17
全くその通り	23
未回答	1



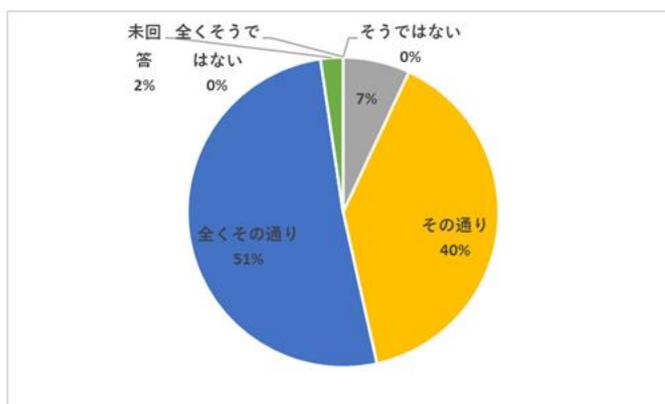
(4) 資料・スライドは分かりやすかった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	1
その通り	19
全くその通り	23
未回答	0



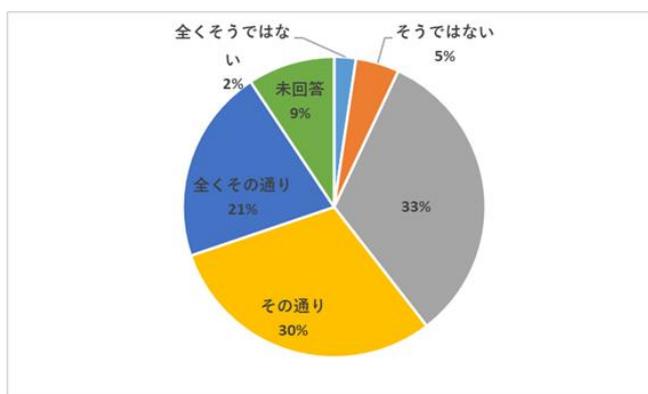
(5) グループワークや演習は、研修内容の理解促進に役立った。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	3
その通り	17
全くその通り	22
未回答	1



(6) 私の所属する機関で「属性を問わない相談支援」を実施することは可能である。

項目	人数
全くそうではない	1
そうではない	2
(中間)	14
その通り	13
全くその通り	9
未回答	4



### それは、どんなことか

#### 【断らない支援から全世代を対象とした世帯まるごと支援へ】

- ・生活に困窮している人でなくても、窓口に来られた相談者の内容から多分野につなげられる
- ・対象者のみの支援でなく背景、環境などから他のSOSもキャッチする
- ・子どものことから家族支援につなげることがよくある。
- ・医療・高齢者が主ですが、個をきっかけとして世帯の課題に注目、他へ繋ぐことは可能と感じた
- ・生活の中の困り事や子育て、介護、障がいについて
- ・経済的な相談を通して、属性を問わずに相談支援を実施する
- ・本人の子の相談を受けることがある。
- ・総合相談を実施している。 ・総合相談で関わっている
- ・相談窓口のひとつになりたい
- ・妊娠～子育てに関する属性であれば、生活困窮や家族の事業等のことについても現在も幅広く支援していると思える
- ・すでに制度の狭間にある方々の相談等を受けてきているから

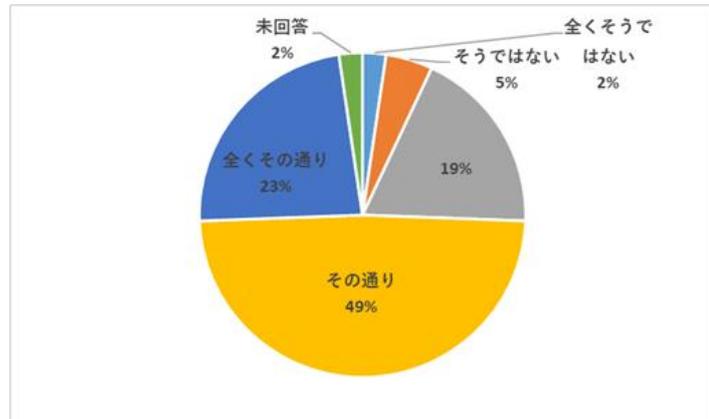
#### 【適切な機関に確実につなぐ協働】

- ・今回の研修で今まで以上につながり幅が増えると感じた
- ・直接の支援は難しいがつなぐことは、可能であると思う。
- ・もっと地域の特性を知り、地域住民の方と顔なじみになる必要を改めて感じた
- ・相談を受けるが精神保健福祉分野の内容以外になると対応できない
- ・障がいがあってもなくても働きたい人を応援する

## 7 多機関協働

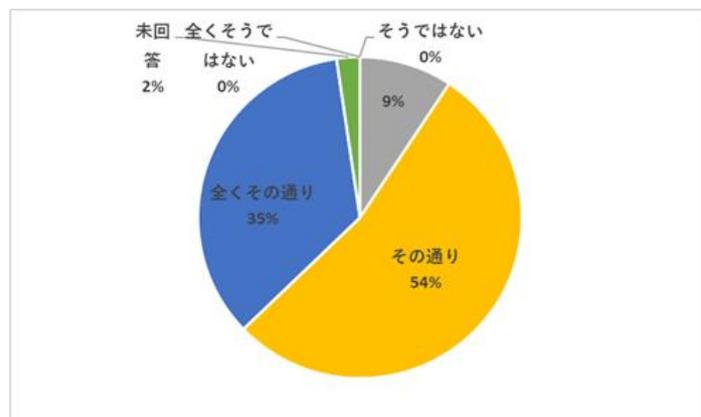
(1) これまで、関係機関との連携・協働(多機関協働)の相談支援を実施してきた。

項目	人数
全くそうではない	1
そうではない	2
(中間)	8
その通り	21
全くその通り	10
未回答	1



(2) 多機関の役割や機能を、理解することができた。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	4
その通り	23
全くその通り	15
未回答	1



### その理由

#### 【関係機関の役割理解】

- ・実際の活動例の話（多機関連携を実践してくれた）が分かりやすかった
- ・各個別の仕組みを詳細に講義し、事例によって想像しやすかった
- ・研修内容が分かりやすかったため ・説明は分かりやすかった
- ・ロールプレイがどなたにも分かりやすいと感じた
- ・座学とシンポジウムを通して学べた
- ・シンポジウムが分かりやすかったため
- ・研修で理解できたので、実際に連携することで理解を深めることができると思う
- ・時間をかけ丁寧に説明していただいた
- ・1日目のシンポジウムが分かりやすかった

#### 【新しい知識の獲得】

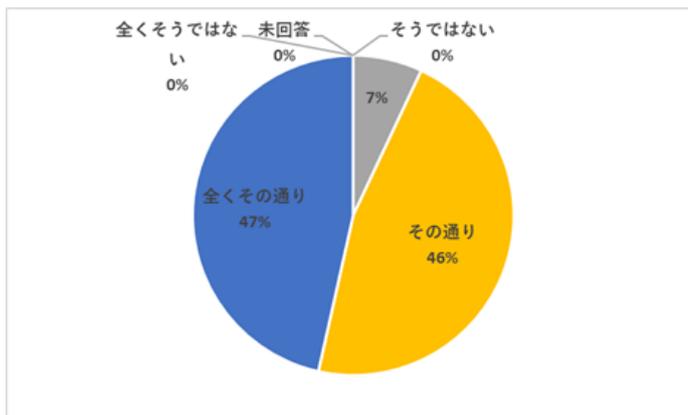
- ・知らない機関があり、機能を知ることができた。
- ・教育分野以外のことは知らないことも多かったので、地域の社会資源について知る事ができた。
- ・知らないことが多かったので、よかった
- ・子ども関連は、ほぼ知らず、今回とても勉強になりました。他もより具体的にイメージできた。
- ・改めて知ることで自分が知らなかったことを理解できた

**【幅広い分野への理解】**

- ・グループの中で様々な職種の方と話すことができた
- ・再確認することができた
- ・利用者にとっても支援者にとっても必要なもの
- ・支援において自身の価値観を知ることが、大事だと理解した
- ・1日目のデモ、10分毎の講義、GWでの会話、完全ではないですか
- ・それぞれの役割や関わり方に違いはあるものの同じ目標をもつことで相互作用が生じることを学んだから

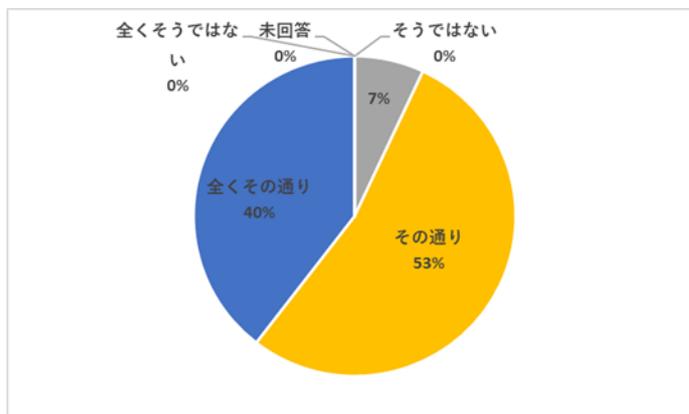
(3) シンポジウム形式での事例検討は、分かりやすかった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	3
その通り	20
全くその通り	20
未回答	0



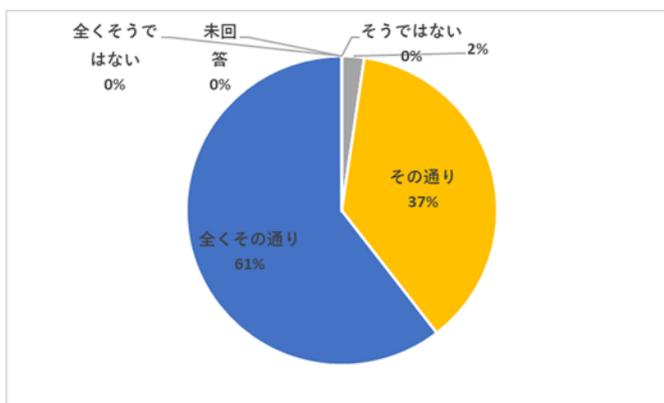
(4) 研修内容は、期待どおりであった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	3
その通り	23
全くその通り	17
未回答	0



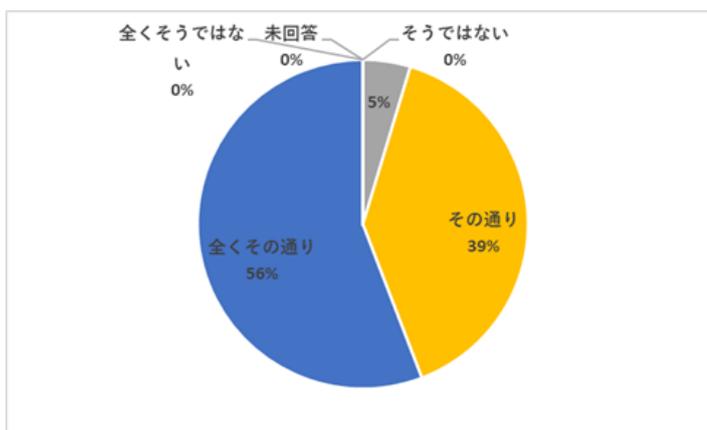
(5) 講師の説明は、分かりやすかった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	1
その通り	16
全くその通り	26
未回答	0



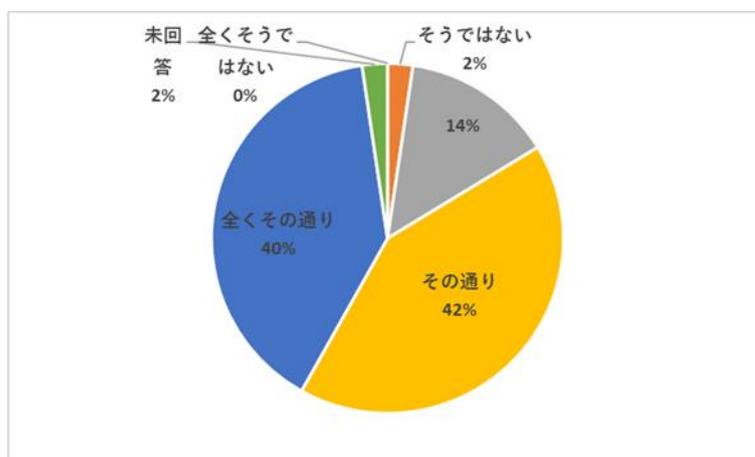
(6)資料・スライドは分かりやすかった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	2
その通り	17
全くその通り	24
未回答	0



(7)私の所属する機関は、多機能協働することは可能である。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	1
(中間)	6
その通り	18
全くその通り	17
未回答	1



それは、どんなことか

**【分野を超えて、多機関に確実につなぐ支援】**

- ・相談者の家族の課題に取り組むことで解決に向える事例もあるため積極的に協働していきたい
- ・ケースごとに関わる機関は異なるが、得意とするところに相談していきたい
- ・世帯の問題を専門機関につなぎながら、一緒に解決を目指す
- ・同じ目的をもって支援することで庁内の世帯に関わる担当課や庁外も繋がりのある支援機関と情報共有すること
- ・関係機関を1ヶ所でも多くつながりたい
- ・働くことに困難さを持っている対象者の方をつないでください
- ・6の個別支援と同様に病院で把握した課題をきっかけに関係機関につなぐことが可能だと感じた

**【所属や多機関を巻き込む支援】**

- ・シンポジウムであったような多機関協働を意識してかかわりたいと感じた
- ・多問題を抱かえるケースには、協働が不可欠
- ・学校で困っている子どもたちについてケース会を開いて関係機関と連携しながら支援を進めています
- ・包括的支援を行う上で、様々な機関と連携したい
- ・日常的に多機関で関わるが、これから子どもなど多様な分野で関わっていければと思う。
- ・子ども家庭分野における支援が必要なケースがなかったが、そういったケースがあれば

協働できると思う。

- ・多機関協働をしないと難しいと感じた

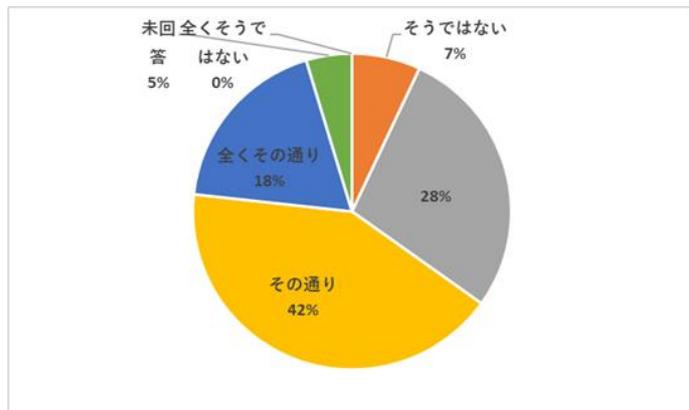
**【日々の業務から多機関連携を意識化】**

- ・他分野に関わっているため
- ・総合相談から個別ケースに多機関で取り組む
- ・日常生活や経済的自立に向けてどんなものが利用できるか一緒に考える
- ・これからもっと頑張っていきたい
- ・医療関係者、福祉機関、スクールソーシャルワーカー、事業経営者、大学機関、自治体など

**8 地域支援**

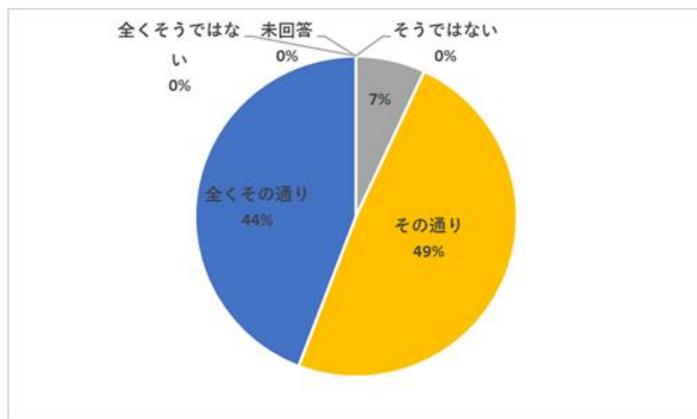
(1) これまで、地域住民との連携・協働(地域支援)を意識して、相談支援をしてきた。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	3
(中間)	12
その通り	18
全くその通り	8
未回答	2



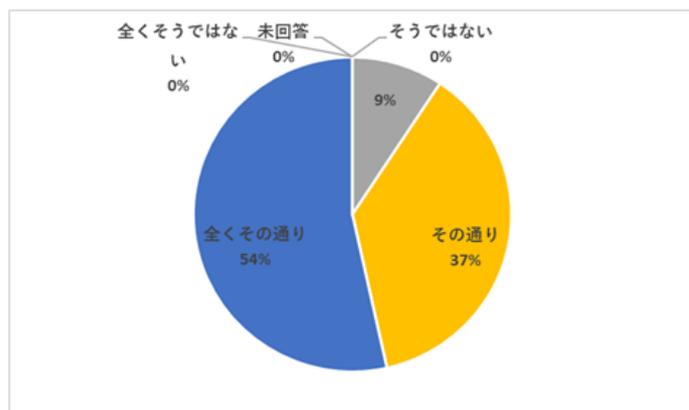
(2) 研修内容は、期待どおりであった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	3
その通り	21
全くその通り	19
未回答	0



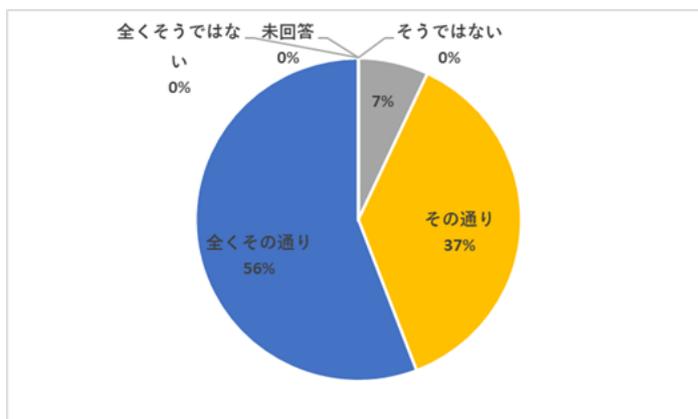
(3) 講師（ファシリテーター役）のファシリテーションにより研修内容の理解が促進した。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	4
その通り	16
全くその通り	23
未回答	0



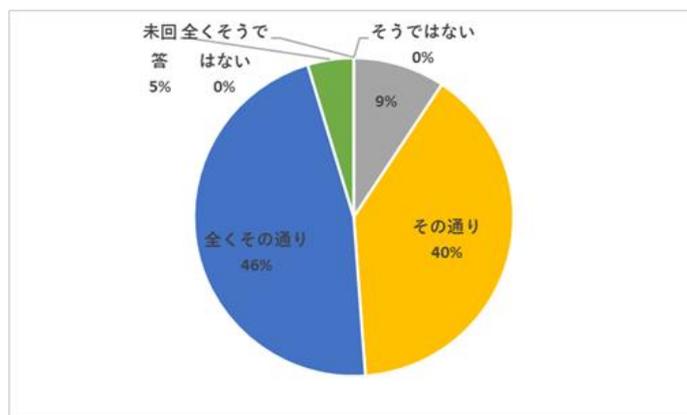
(4) ファシリテーションにより、受講者間の活発な意見交換ができた。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	3
その通り	16
全くその通り	24
未回答	0



(5) 私が実施する相談支援は、地域支援が必要であると考えている。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	4
その通り	17
全くその通り	20
未回答	2



### その理由は

#### 【全世代型の支援体制へ】

- ・地域支援を実施することで、相乗効果として周りの見守りや気づきの場が増え自分の担当している虐待等や困窮にも繋がるものとする
- ・単身高齢者の方の居場所支援
- ・家庭力の弱い家庭の朝の登校支援（送迎）をボランティアの方にしてもらえると学校に来られる子供（特に障がいのあるお子さん）
- ・移動の足、日常の支援、生きていくと 24h 支援があるといいことある
- ・専門の人のお手伝いが必要。
- ・子育て中の親たちの交流があると相互作用になるか

#### 【地域住民を巻き込んだ共助の輪】

- ・住み慣れた地域で暮らしていく上で地域住民とのつながりは欠かせないと思う。
- ・妊産婦や保護者、子どもも地域で安心して過ごすことが、ゴールと思うので、地域支援は必要と考える
- ・インフォーマルな支援の重要性を感じている
- ・フォーマルサービスでカバーできないことをインフォーマルサービス（地域支援）で助けてほしい
- ・フォーマルなサービスだけでは補えないものがあるし、つながりや地域の力を奪ってはいけない

### 【地域支援の視点】

- ・地域支援はとても大切です。
- ・主として病院からの退院支援を行っており、住み慣れた地域に暮らし続けるためには、ベースとなる地域づくりが大切だと改めて理解した
- ・地域支援は不可欠な業務だと思う
- ・SWとしての使命

### 【課題からの政策提言】

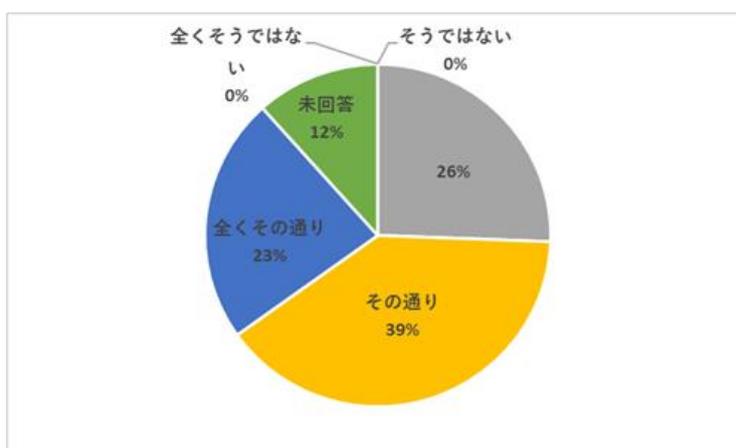
- ・学校、家庭では解決できない問題に対して地域支援が必要だと感じた
- ・福祉サービスではできないゴミ屋敷などの片付け
- ・制度の狭間の人の支援のためには特に必要だと思う

### 【個別支援から地域全体の課題をとらえる視点】

- ・個別面から地域環境に必要なサービスを検討
- ・名称は知っていても具体的な内容は知らなかったので、相談業務にも1つのワードとして活用できると思う
- ・実施できることは限られており、様々な機関の支援が必要である
- ・9月に助成金をもらって屋台（まちの保健室の様）を実施するが、そこでつながった住民から他機関に繋げていける可能性を感じた。
- ・相談者の特性に配慮する必要がある
- ・利用者のジョブトレーニングの先として。働く場所として

(6) 私の所属する機関で地域支援を実施することは可能である。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	11
その通り	17
全くその通り	10
未回答	5



### それはどんなことか

#### 【既存の資源を有効活用】

- ・高齢者、小学生への見守り、声掛け
- ・定期的な訪問による状況確認
- ・地域の人や使える資源で、見守り活動や居場所を増やして本人の選択枠を増やす
- ・民生委員の協力で小学校の通学ルート of 安全確保というケースがあったので、そういった地域との関わりを作りたいと感じた
- ・あゆみ相談を実施している。(障がい児だけでなく発達に心配のあるお子さんたちの相談をうけている)

#### 【住民やボランティアと一緒に創り上げる】

- ・大学生のボランティアとの交流やボランティア活動・法人としてさまざまな事業に取り組んでいるので、特にニュータウン近辺で住民と一緒に活動など考えていきたい。
- ・地域環境に必要なサービスを一緒に検討していく
- ・地域住民、自治会との協力があるので、活用できると思う

### 【地域づくりは難しい】

- ・すぐに実現しないかなと思うと二の足を踏んでしまう
- ・全体のアプローチは、やや難しい

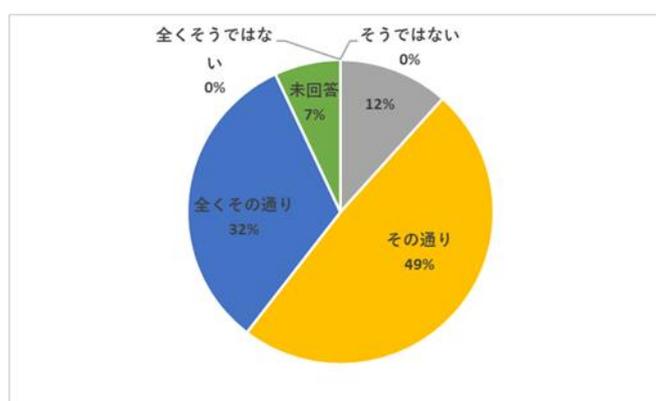
### 【地域全体を一步下がって見渡す視点】

- ・個別支援という形で目の前の人の困り事しか目に見えないことがあるが、少し視点を変えて一步下がってみることで地域課題が見えてくることもあると思うから
- ・ゼミ活動、大学として今後取り組んでいきたい。
- ・実際行っている
- ・これから実施していきたい
- ・連携しなければ解決しない事が多いと思う
- ・住民主体サービスの充実
- ・住民の方の困り事をジョブトレーニングにするなど

## 9 3つの領域（個別支援、多機能協働、地域支援）共通

(1) この研修を受講する前後で考え方や行動に変化があった。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	5
その通り	21
全くその通り	14
未回答	3



### それはどんなことか

#### 【価値観の理解から行動変容へ】

- ・自分の価値観を知ること、相手の価値観とは違うことを、演習を通して再確認できた。その上で新たな価値観や視点を身に付け実践で活用したいと思った
- ・多様な価値観で色々な角度から物事を把握することが必要
- ・自分の価値観というものに改めて気づかされ、価値観は人の数だけ存在するもの、支援者の価値観について自分の経験値が反映されており、他者の価値観を判断することの難しさに気付いた
- ・支援者同士もその中で違いが生じるためそこを理解していくことが大切だと感じた
- ・いろんな方の考えや意見を聞く事によって自分の考えの狭さや柔軟さが無い事に気付いた。
- ・知識としてあったことでも、普段の仕事ではあまり意識できなかったため、今後は頭にいれながら仕事に取り組みたい
- ・知らない活動を知ることができ、支援を行うときの視野が広がり、提案できることが増えたと思う
- ・SWの行動変容につながるいい研修だったと感じた。
- ・支援するなかでの自分の立ち位置を客観的にみる
- ・経験慣れで対応していくことでスルーしがちな事もあるので、初心に戻り色々と視点を持って対象者や家族、地域の方々関係機関の方々と関わっていききたいと思う。
- ・対象者との距離感について。立ち位置を改めて考える機会になった。
- ・自己覚知をしていこうと思った

**【分野を一步踏み出した多職種連携】**

- ・特に分野の違う機関と連携をとる際に、”結果”だけを共有するのではなく、その結果に至った過程を一步踏み込んで共有することで相互理解が深まると感じた。
- ・多機関の連携を今まで以上にとっていこうと思う。
- ・今までよりも、より情報共有を密に行い、色々な機関と連携できたらなあと思った。
- ・より広い機関の方とのつながりが必要だと思った
- ・会った方の情報が知れた・自分が関わった方が多くいた。
- ・要支援者を適切な相談窓口つなげることができるようになった
- ・自己覚知がまだまだできていないと感じたし、より地域支援のつながりを支援する上で多機関から情報を得ることが大切だと感じた
- ・普段は障がい関係の機関しか連携することがないが、幅広い機関があることを知り、交流もできて考え方が変わったと思う
- ・自施設がどのような形で地域貢献できるか。地域支援のどのような役割を求められているか考えさせられた
- ・多機関協働がおざなりになっていたので、きちんとやらなければと思った。ひいては個別支援もしっかりアセスメントできたのか？基本的な事ができていないと反省しきりでした。

**【地域づくりの意識化】**

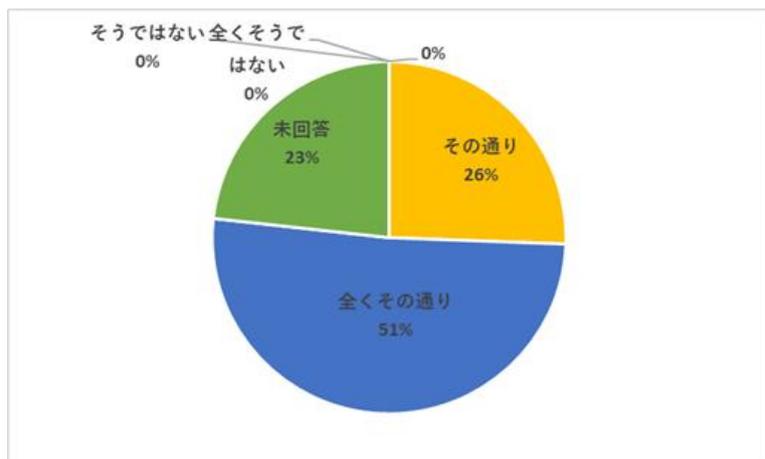
- ・「個」の課題から地域全体に広げていく過程が分かりやすかった
- ・今まで以上に地域支援の必要性を感じた。また相談できる機関、活用できる制度が多くあることも改めて理解し、積極的に多機関協働に取り組みたい
- ・行政に色々な機能があることを知る事ができ、すごく勉強になった。
- ・他機関の仕事内容を知ることができた
- ・立場が違うことによる考え方の違いを理解し、関係機関と対応する。
- ・他機関のことを知れたから

**【課題解決に向けた情報発信】**

- ・今なんとかしたい→その前に集まって支援策を練る→必要な支援を継続できるようになるといい
- ・誰かが始めてくれたら多くの人が賛同して参加していくと思う。

(2) 研修で学んだ（得たもの）を職場や業務に還元したい。

項目	人数
全くそうではない	0
そうではない	0
(中間)	0
その通り	11
全くその通り	22
未回答	10



10 今後、ご自身の実践で取り組みたい想いをアクション（行動計画）として宣言（自由に記入）してください。

**【個別支援のスキルアップ】**

- ・自分の価値観によって支援がかたよってしまうおそれがあることを知り、自己覚知により適切な支援を提供できるようにしたいと感じた
- ・個別支援をする上で、それぞれ考え方が違うため、相手を理解するためにもまずは、自己覚知していきたい
- ・自分の専門分野以外にも興味を持つ
- ・自分の知識を増やせるよう横のつながりを作る・利用者の方の話をじっくり聞いていきたい
- ・自分の考えの偏りをすごく感じた・傾聴を丁寧にすることから始めたいと思う。
- ・野良猫の保護活動の継続・子どもからお年寄りまでがつどえる見守り型、送迎型の食堂（喫茶）、学びの場（塾や趣味的な習い事）、宅配弁当をやりたい。フードバンクやお年寄りが作っている野菜を使う。近い将来相談に行きます。

**【地域資源の発見・創設・発信】**

- ・自分の住んでいる地域の地域活動に参加してみたい。
- ・一人暮らし高齢者の支援（寂しい話し相手がほしい）・自ら行動に移せない方がいるので、インフォーマルサービス活用も考えて民生委員や近所の方にも協力し合っていきたい。
- ・今後の活動で住民のつぶやきを拾いながら他機関につないでいく活動をしていきます
- ・SSW や子ども、子育て支援の役割機能等を学ぶことができ、普段あまり関わりが少くない機関が、よりみえる化ができたので、良かった。地域の方の声や課題を分析しながら、地域の実状に合わせたサロンの立ち上げをみんなで協力して行って行けたらと思う。
- ・オープンダイアログを取り入れ、当事者の方も含めた多分野検討会を働きかけ、ファシリテートしていきたい
- ・地元の地域活動に参加する
- ・これからの地域づくりに活かしていきたいと思う

**【多機関協働での支援チーム作り】**

- ・情報共有の質を意識して取り組みたい・研修など積極的に参加し、支援者のつながりを強化していきたい。
- ・本人の困り事の中で他分野の方の意見を伺い提案していく・本人の力を奪わない支援
- ・多機関との協働は、重要。別の研修会にも随時参加したいと思う。
- ・多機関との連携相談を受ける機会が多いですが、自分からも専門職の皆様から情報収集をする
- ・総合相談の窓口だからこそ、視野を少しでも広く持ち、他機関との連携が図れるように支援していきたいと思う。
- ・各家庭の様子の情報がある保育園からの情報を子ども家庭支援課につなぐ

**【世帯まるごと支援で全世代型へ】**

- ・これまで多機関連携はしているつもりだったが、それは多機関（高齢者分野内）にすぎないことに気づかされた。その方個人はもちろんだが、世帯を支援していく広い目でみると、多分野連携をしていける。
- ・入院患者への退院支援が主ですが、それをきっかけに家族の課題により注目して世帯まるごとサポートできるよう努力します。
- ・世帯全体、背景をみることを改めて意識したい
- ・高齢者の相談支援の中で世帯全体の状況をみて高齢者をとりまく課題もみつけられる視点ももっていく
- ・目の前の相談者だけでなく、その家族や環境に今以上に目を向け、経験のメガネで見つ、そのメガネがかかっていることも意識して多角的な視点ももって相談支援にあたりたいと思う。
- ・高齢者の課題を高齢者中心で考えていくことが多かったが、もっと広げて多世代もからめていくことも考えるようにしたい

### 【仕組みづくりの担い手へ】

- ・重層事業（多分野。多機関協働）についてまずは、本所の関係者に理解してもらえるような研修を実施する
- ・重層を通じた体制づくりに、自分も研修者として参画していきたい。
- ・個別支援ケースから地域共通の課題へ発展させ取り組んでいきたい
- ・取り組みの創設の仕組みなど知識が不足して今までよく分からなかったが、2日間の研修のおかげで創設の方法などよく理解できた。
- ・ケースに対する事のみにとらわれない実践・春日井市の社会福祉士のネットワークを作りたいみたいな鑑を脱いだ支え合いができるような仕組み

### 【その他いろいろ】

- ・屋台
- ・コミュニティーナース育成
- ・大学生のボランティアとの交流
- ・2日間刺激的な研修になった
- ・宣言はできないなあ。

## 11 今後、この研修に期待することを記入してください。

### 【さらなる多分野・多職種との関係づくり】

- ・顔の見える関係性を構築できる
- ・多機関の方と交流ができ顔の見える関係作り
- ・グループワークがあったことで普段の支援の中では関わらない多分野の方と関わる機会がもてて良かった。研修、グループワークを通してお互いの職種や役割が分かり、今後の相談支援の連携先を理解した。またその機関の人とも繋がれたのが大きな成果であり、今後、役立てていきたい
- ・2日間の研修内容がよかったです。引き続き継続して行っていただけると嬉しいです。
- ・つながりができるといい。
- ・他種職の方々との交流
- ・色々な方とのつながり、交流づくり
- ・関係機関との連携を強める
- ・継続して行ってほしいと思う。同じ人の参加もいいが、初めて参加する人が毎年増えると思う
- ・研修「継続」を期待する。グループワークもあり、楽しみながら学びが深まった。
- ・仲間の輪を広げ、分野をこえて支援する人たちを増やしてほしい。また支援者の熱意を高めてほしい。
- ・研究会、研修、インターグループ等を通して春日井市の体制が一層充実すると良い
- ・市役所の中の問題解決の連携の仕方が丁寧で参考になった。皆様エネルギーです。

### 【事例共有の場づくり】

- ・具体的な事例で実際にどう動いていくかを多分野の専門職の方と話し、意見を伺い、自分たちの支援の選択枠も増やす
- ・多分野連携について、事例等もっと知りたいと思った
- ・今後、実際の行動変容につながった事例（個別、地域支援）の共有化ができる場があるといいかと思った
- ・多機関協働が地域支援の実践例を知ったり、お互いのつながりなどを強められる機会が今後も持てるとうれしい
- ・個人的には、個別支援についてまだまだ知識不足なので、より支援方法を勉強する機会や、ファシリテーション育成の研修等があれば、参加してみたい
- ・関係機関の方と直接会ってお話ができる貴重な場だと思う。2回目、3回目・・・の参加も可にしてください。

### 【支援チームの拡充・結束強化】

- ・より多くの人に知ってもらい、多機関協働、地域支援がより活発になればと思う

- ・関係する機関には、多くの人に参加してほしい。
- ・多機関をつなぎながら継続的な支援ができる環境づくり・財源を確保する手段もまなびたい

- ・他機関のことをもっと知りたい

**【合同研修のスリム化・仕組化】**

・多機関が協働することは、必要だと思うが、課題があると言い出した機関が中心になって他機関へ働きかけを行っていくことは負担が大きいです。重層担当に相談することで、最近はとても助かっている。研修は、1日をお願いします。

・演習「機関がつながるエコマップ」での多機関協働が実際に自然につながり支援していくことができたらと思った。

・これだけ多くの機関、分野、多職種が地元密着で一緒に学べる研修はなかなかないと思う。準備をしている方は、大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。1日目の後半の「本人支援から世帯まるごと支援」のコーナーは、長くてダレ気味。そこだけ残念だが、とてもよかった。

- ・時間どおりに終わっていただけるとうれしい

**12 フォローアップの機会または研修があれば、希望しますか。**

項目	人数
希望する	31
希望しない	0
どちらともいえない	9
未回答	3

